

(別添 4)

【大分県 大分市】

一人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 一人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

当市では、「Society5.0 時代においても、夢や希望をもち「生きる力」を育むたくましい子どもの育成」を目的とした「大分市立学校教育情報化推進計画」を策定し、教育の情報化に取り組んできました。将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくために、各教科等の特質に応じた適切な学習場面において、子どもたちの情報活用能力の向上を図っていきます。

また、GIGA スクール構想により整備が進んだ ICT 環境を最大限に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

2. GIGA 第 1 期の総括

当市では、GIGA スクール構想実現に向けて、下表のとおり端末及び通信ネットワークの整備を進めてきました。

年度	月	内 容
令和 元年度	9 月	・ コンピュータ教室の端末リースアップに伴い、3 クラスに 20 台の端末（Windows タブレット 11,000 台）を配備。 ・ 併せて、普通教室に 1 台・特別学級に 1～3 台のプロジェクタを整備。 ・ 平成 25 年度から配置している ICT 支援員についても継続配置。
	12 月	・ 閣議決定された「安心と成長の未来を拓く総合経済対策」の内容を受け一人 1 台端末実現に向けた検討を開始。
令和 2 年度	5 月	・ 学習支援を目的とした端末持ち帰りの実施。 ※以後、学年閉鎖の際などに、必要に応じて持ち帰りを実施。
	通年	・ 34,000 台の端末（iPad）を調達。 ・ 校内高速通信ネットワーク環境を整備。 ・ 家庭に貸し出し可能なモバイルルータを調達。 ※令和 3 年度～令和 4 年度は、臨時休業時にのみ家庭に貸し出しを行う。 ・ 独自ドメインを取得し、全教職員及び全児童生徒分の Google・MS365 のアカウントを作成。
令和 3 年度	4 月	・ 一人 1 台端末の稼働開始。 （小 1～小 2：Windows タブレット 小 3～中 3：iPad） ・ 授業を担当する教員にも端末を配備。 ※その他の教職員は共用機及び予備機を使用。
	1 月	・ 通常時における端末持ち帰りを開始。 ※月 1 回から開始し、発達の段階等に応じ、週 1 回程度の持ち帰りを行う。

(別添4)

年度	月	内 容
令和 4 年度	12 月	・校外活動等で活用できるように、各学校に常時開放のモバイルルータを貸与。 ・校内での情報共有や連絡に使用できるチャットツールを全ての学校で使用できるように整備。
令和 5 年度	1 月	・デジタルドリルの試行開始。 ・通常時における端末持ち帰りにおいても、モバイルルータの貸し出しを開始。
令和 6 年度	8 月	・教職員の生成 AI 活用開始。

通信ネットワークについては、クラウドを活用した学習活動が円滑に行われるように、「必要な帯域の確保」と「十分な通信速度の確保」に留意した整備を行いました。

帯域確保のために学校規模に応じて回線速度等を変更				通信速度確保のために、学校から直接インターネットに接続する 「学校個別接続」方式で構築
	大規模校	中規模校	小規模校	
クラス数	30 程度以上	20～29 程度	19 程度以下	
児童数	500 超	400～500	400 未満	
回線速度	10Gbps	5Gbps	5Gbps	
校内 LAN 幹線	1Gbps×4	1Gbps×4	1Gbps×2	

整備後は、「各学校のネットワーク環境の常時監視・異常発生時の即時対応」等を盛り込んだネットワーク保守委託契約を結び、安定運用に努めています。

整備された一人1台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、本市教職員研修に位置付けている情報教育担当班主任の研修を年間34回、経年等研修での講座を年間7回実施しています。

ICT活用講座では、端末・アプリの使い方を学ぶ基礎講座の割合を年々少なくし、ICTを活用した授業づくりに関する講座を増やしています。「学びの進行を子どもに委ねる授業づくり」という講座では、本市長期派遣に係る研究員が実際に学校で実践した授業案を基に「自己決定・自己調整・相互啓発」を大事にした学びを教員が体験し自分の授業づくりにいかせるようにしています。令和6年度の夏季休業中、希望者対象に実施

研修後のリフレクションシートで、「つながった」「どちらかといえばつながった」と回答した割合	
項目	割合
今後の職務に対する意欲向上につながりましたか。	99.2%
内容について、理解が深まりましたか。	99.8%
「育成指標における自身のキャリアステージに求められる資質能力」の向上につながりましたか。	99.0%

したICT活用講座を388名の教職員が受講し、満足度も非常に高い結果となりました。(上図参照)

情報モラル教育研修においても、児童生徒のネット活用の現状等を知る座学的な内容だけでなく、授業支援アプリを活用し、児童生徒が、ネットトラブル等を自分事として自覚できる授業づくりについての演習を行っています。

初任者研修では、教科等指導に関する講座において、学習指導案作成に係る講義を行う前に、大分市内で実践されている「協働学習におけるICT活用事例」等を学ぶことができる講座を設定することで、学習

(別添4)

活動における ICT 活用をイメージしやすいようにしています。

また、上記の研修以外に、ICT 支援員に対しても、月に1回、教員が受講しているものと同じ内容について研修を行っています。その内容・資料を基に、ICT 支援員が各学校でミニ講座を行うことで、大分市教育センターで実施する研修を受講できない教員にも活用方法等が共有されるようにしています。

以上のような取組を通して教員の ICT 活用指導力向上が図られており、特に「授業に ICT を活用して指導する能力」「児童・生徒の ICT 活用を指導する能力」については、令和元年度調査と比較して、20pt 以上向上しています。しかし、4 項目全てで「わりにできる」若しくは「ややできる」と回答した教員の割合が 100%の学校がある一方、70%台に留まっている学校も複数あったことから、各学校の課題に応じた取組を進めるために、「教育情報化推進担当者研修」において、自校の調査結果を基に「目標」と「取組計画」を作成する時間を設定しました。

府内小学校の現状と令和6年度の取組計画				
1. 「教員の ICT 活用指導力」の状況 「令和5年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より				
【調査項目】 A: 教材研究・指導の準備・評価・校務などに ICT を活用する能力 B: 授業に ICT を活用して指導する能力 C: 児童・生徒の ICT 活用を指導する能力 D: 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力				
※「わりにできる」若しくは「ややできる」と回答した教員の割合の太項目別平均				
	A	B	C	D
大分市の平均	93.6%	90.3%	90.9%	94.6%
府内小学校の平均	92.1%	89.4%	86.3%	91.5%
2. 一人1台端末の活用状況 「令和5年度 学校における教育の情報化の実態等に関する調査」より				
	質問内容	府内小学校の回答		
1	緊急事態に備えて、オンラインによる学習支援をするために機器の整備や操作研修などの体制を整えているか。	1 整っている		
2	児童生徒に対して、一人1台端末などの ICT 機器を、授業でどの程度活用したか。	2 週3 週1回以上週以上		
3	平時に端末を持ち帰っているか。	2 特定の学年・クラスが実施		
4	平時に端末の持ち帰りをしている学年や学級の状況	2 週3 週1回以上週以上		
5	令和5年度の学校経営方針の中で、タブレット端末の活用について具体的な目標を設定しているか。	1 設定している		
活用状況をレーダーチャートにしてみました。				
3. 府内小学校の課題				
4. 令和6年度の目標 ※令和5年度の状況・課題を基に、具体的な数値目標を立てましょう				
5. 令和6年度の取組計画				
月	取組内容			
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				
1月				
2月				
3月				

◇研修で使用したワークシート（学校名・数値は架空のものです）

研修時に作成したワークシートは、当該校の ICT 支援員にも共有し、支援の際に活用するようにしています。次年度も、ICT 活用指導力の向上を図るために、同様の研修を実施する予定です。

児童生徒の活用も進んでおり、「令和6年度 全国学力・学習状況調査（質問紙調査）」の ICT 活用に関する項目（質問 28-1～28-7）において、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は、小中ともに

(別添4)

全国平均を上回りました。特に、「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」については、中学校において、8pt 以上全国平均を上回っており、考えを表現する場面で ICT を効果的に活用していることが分かります。各学校での活用事例を共有することで、日常的な活用を推進していきます。

3. 一人1台端末の利活用方策

一人1台端末を配備し、日常的な活用を推進してきたことで、「自分の考えや意見を分かりやすく伝える」「友達と考えを共有したり比べたりする」「友達と協力しながら学習を進める」など、様々な学習場面において、一人1台端末は児童生徒にとって必要不可欠なツールとなっています。

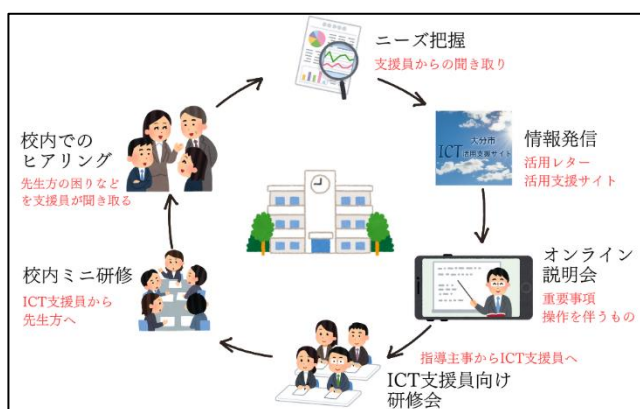
そのような中、現在、使用している Windows タブレットは稼働から5年が経過し、バッテリー持続時間が短くなるなど、授業で終日利用することが難しい端末も増えています。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るためにも、令和6年度中に新しい端末の調達を行い、以下に示すような一人1台端末の利活用推進を図ります。

(1) 一人1台端末の積極的活用

令和3年度稼働開始の iPad 及び令和7年度稼働開始の新しい iPad を積極的に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指します。

そのために、ICT 活用講座の内容を精選し、ICT を活用した各教科等における授業づくりに関する講座を増やすとともに、教育委員会各部署と連携して、経年等研修や校内研修等、様々な機会を通じて、一人1台端末の積極的な活用を促します。

ICT 支援員の配置も継続し、授業等での端末活用を支えるとともに、大分市教育センターで開催する ICT 活用講座を受講できなかった教員向けの「校内ミニ研修」を各学校で実施します。



◇ICT 支援員との連携イメージ

また、これまで使用してきたプロジェクタは、「準備に時間がかかる」「視認性が低い」「マグネットスクリーンを黒板に貼って使用するため、板書スペースが限られる」などの課題があったことから、令和6年度中に全ての学校・教室に電子黒板を配備します。教室に電子黒板を常設することで、板書スペースを確保した状態で、デジタル教科書や児童生徒が端末で作成した資料等を簡単に投影できるようになります。さらに、Chrome OS Flex 搭載型であることから、クラウドサービスも簡単に活用することができます。電子黒板が導入されることで実現可能となる授業づくりに関する研修も行うことで、一人1台端末の積極的な活用を推進します。

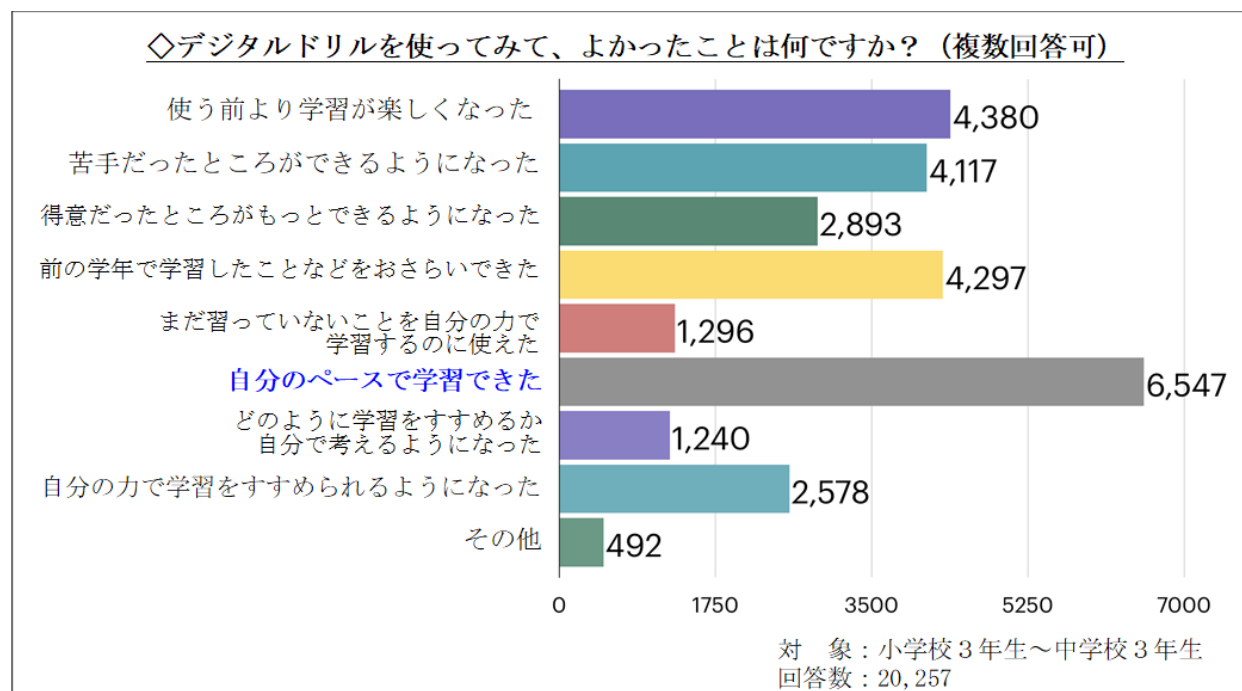
(2) 個別最適・協働的な学びの充実

「2. GIGA 第1期の総括」に記載したように、「令和6年度 全国学力・学習状況調査（質問紙調査）」

(別添 4)

の ICT 活用に関する項目（質問 28-1～28-7）において、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合は、小中ともに全国平均を上回っており、授業での活用は一定程度進んでいると考えています。全ての教室で ICT 環境の日常的な活用が進み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られるように、市内及び全国での事例を収集し、教科・単元ごとの活用案を大分市ポータルサイト（活用支援サイト）等に掲載するとともに、実践的な研修を行います。

また、児童生徒が自分の理解度等に合わせて自ら学習を進めることができるように、AI 型デジタルドリルの試行を令和 6 年 1 月から実施してきました。令和 6 年 9 月に小学校 3 年生以上を対象に実施したアンケートでは、「自分のペースで学習できた」と回答した児童生徒が多く見られました。（下記グラフ参照）「どのように学習をすすめるか自分で考えられるようになった」と回答した児童生徒もいるなど、一定の成果が得られたことから、令和 7 年度より AI 型デジタルドリルを本格導入し、児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面での活用を進めていきます。



(3) 学びの保障

当市では、令和 6 年 7 月に、不登校の未然防止や児童生徒の支援に向け「OITA COCOLO PLAN（オオイタ・ココロ・プラン）」を策定しました。「一人 1 台端末の持ち帰りによる学習支援（教材の配付、課題の提出等）」「オンラインを活用した支援（授業支援アプリ等）」「遠隔会議システムを活用した遠隔授業」など、多様な学びの場を確保し、子どもたちの学びの保障に努めています。

